

## 後期学校関係者評価考察

文責 教頭 笹本 信仁

はじめに

本校では、これまで長年にわたり【やる気・元気・根気・勇気・思いやり】の「五本の木」が校訓として受け継がれてきている。この校訓を受けて、「学びを深め、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を令和5年度も学校教育目標に掲げ、学校長をリーダーに全職員が一丸となって児童の育成に携わっている。

小中一貫校（白根巨摩中学区）目指す児童生徒像「思いやり、創造力、すこやか体を持ち、未来を担う白根こまっ子」を念頭に入れ、白根東小学校の目指す児童像「情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる児童」を実現するために、教職員一人ひとりが日々の教育活動に取り組んでいる。

学校教育目標の達成や目指す児童像を目指していくためには、教職員の力だけでは大きな成果には向かっていけない。今回行われた学校評価（教職員・児童・保護者）の結果を真摯に分析し、その改善点を明確にするとともに、保護者や地域と連携しながら日々取り組んでいかなければならないと考える。

「A」（あてはまる）「B」（どちらかというにあてはまる）を肯定的意見、「C」（どちらかというにあてはまらない）「D」（あてはまらない）を否定的意見ととらえる。自己評価（教職員）はすべての項目について肯定的意見が100%となっている。児童アンケートの肯定的評価は15項目中14項目が90%以上、1項目で、80%弱という結果であった。さらに保護者アンケートにおいても肯定的評価は16項目中すべての項目で90%を超えており、全体的にみておおむね満足できる状態であるといえる。ここ数年間の集計結果は多少の数値の変動はあるもののほぼ同じような結果になっている。2020年から続いている新型コロナウイルス感染症は2023年5月にようやく5類感染症になった。以前と全く同じような活動にはなっていないが、多くの活動の制限がなくなった。新しいスタイルの活動も取り入れながら子どもたちの目線で教育活動を進めていきたい。

昨年度からスタートしたGIGAスクール構想は、一気に前進し、授業での活用をはじめ、家庭での活用も進み、学校生活はこの間大きく様変わりした。新しい学習スタイル等に柔軟に対応し、さらなる高みを目指した取り組みを構築していきたいと考える。

<考察の視点>

令和3年に中央教育審議会から、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が出された。また、学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の編成・実施、その基盤となる「カリキュラム・マネジメント（教育課程の編成）」、「主体的・対話的で深い学び」を通して、子供たちにこれからの持続可

能な社会をたくましく生き抜く力を育てていく具体的な取り組みが、学校教育には期待されている。そのため学校・家庭・地域社会が協力し連携していかなければならない。それらの目指す方向が一致してこそ、学校はよい方向に進み、同時に地域にもよい影響を与える。未来の地域を支える子どもたちを、地域とともに育てていくという考えが一層重要になってくる。

#### <全体的傾向>

自己評価（教職員）はすべての項目について肯定的意見が100%であり、保護者アンケートでもすべての項目で90%を超えている。また、児童アンケートの肯定的評価は15項目中、14項目で90%を超えている。全体的に見ておおむね満足できる状態ではあるが、結果から見えてくる状況を考察し、今後の教育活動に生かしていくことがさらなる高みを目指すためには大変重要なことである。

#### <視点①>【学習面に関わって】

**自己評価（教職員）⑥**「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」

**児童評価⑧**「授業はわかりますか。」

**保護者評価④**「お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。」

**保護者評価⑦**「学校は、基礎学力定着のために指導をしていると思いますか。」

自己評価⑥の肯定的評価は、A評価が100%になっており、教職員は皆、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めていることが分かる。児童評価⑧も肯定的評価が99%（A:76% B:23%）と高いものとなっている。保護者評価④は肯定的評価が91%（A:39% B:52%）と高いものの、A評価は低い数値になっている。保護者評価⑦も肯定的評価は97%（A:53% B:44%）と高いものの、B評価が44%と高いことは気になる。自己評価・児童評価と保護者評価の認識の違いを意識しながら学習（授業）を進めていかなければならない。引き続き、基礎基本を重視しながら「分かる喜び」を味わわせ、学力を伸ばしていけるような取組を進めていく必要がある。また、一人一台端末を有効活用していきたい。

児童評価⑩「授業（勉強）でわからない時には、先生に聞いていますか。」の肯定的評価は91%（A:67% B:24%）となっている。前期の数値よりは若干上がっている。分からないところは聞けていることは大切なことであり、学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多いことが分かる。引き続き丁寧な対応を行っていきたい。

⑪「授業中に、手をあげたり自分の考えを言ったりしていますか。」の肯定的評価は、79%（A:49% B:33%）である。目指す児童像は「情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる児童」である。自らの意見を発信することが苦手である児童が若干多いという状況が分かる。授業での指導方法の工夫や児童自身が安心して考えを発表できる環境づくりに、今後も力を入れていく必要がある。

保護者評価⑤「お子さんは、家庭で勉強する習慣がありますか」については、肯定的評価は91%

(A:52 B:39)であった。家庭学習の定着はとても大事なことである。学校は「家庭学習強化週間」等も行っている。ご家庭の協力を得る中で、家庭学習の定着をさらに高めていきたい。また、端末の持ち帰りも行っているので有効活用していきたい。

#### <視点②>【学校生活に関わって】

**校訓「やる気」「元気」「根気」「勇氣」「思いやり」**に関わっての児童の回答は、①～⑤のすべての項目において肯定的評価が97%以上となっている。児童は前向きに学校生活を送っていることが分かる。日々の授業実践や様々な取組等を行う中での成果であると考ええる。児童が生き生きと学校生活を今後も送れるよう引き続き丁寧な教育活動を行っていきたい。

**児童評価⑥**「学校は楽しいですか。」について、肯定的評価は93%(A:68 B:25)である。C(6%)、D(1%)と回答した児童には、担任等が丁寧な対応を行っている。

**保護者評価②**「お子さんにとって、学校は楽しいとことだと思えますか。」については、肯定的評価が96%(A:56 B:40)である。児童のA評価と若干数値が違うのは気になるところである。

子どもたちにとって学校が楽しいと感じることは学校生活を送る中で最も重要である。肯定的と回答した児童も含め、一人ひとりに寄り添った教育を行っていくことが今後も求められる。同時に、自己肯定感や自己有用感が高まるような集団づくりに取り組んでいくことも大切である。

児童に「学校で一番楽しみなこと」について記述式のアンケートをとったところ、休み時間や友だちとのおしゃべりなどが多く書かれていた。続いて授業の教科等や行事の回答が多かった。記述したことがすべてではないが、児童が楽しみにしていることを手掛かりにして、それぞれの児童の指導に生かしていきたい。

#### <視点③>【家庭での様子に関わって】

**児童評価⑬**「学校での様子を、家の人に話していますか。」

**保護者評価①**「お子さんと、学校の様子などを話していますか。」

児童評価⑬の肯定的評価は91%(A:70 B:21)である。また、保護者評価①も肯定的評価は98%(A:71 B:27)と高い評価となっている。家庭でのコミュニケーションを通して子どものことを理解し、学校の様子を知ってもらったり、学校の教育活動への理解が進んだりする。学校との連携を深めていくためには欠かせないことであるといえる。

#### <視点④>【学校と保護者・地域との連携に関わって】

**自己評価(教職員)⑬**「保護者・地域(及び関係機関)との連携・協力を努めていますか。」

**保護者評価⑭**「学校は、保護者や地域と連携・協力し、より良い教育活動を進めようとしていると思いますか。」

自己評価⑬では肯定的評価は100%(A:64 B:36)と高く、前期と比べてもA評価が上がっている。保護者評価⑭も肯定的評価は97%(A:54 B:43)と高い数値となっている。学校と保護者

が連携し、同じ方向を向いて協力し合っていることが読み取れる。多くの保護者参加の行事も再開し、様々な場面で連携・協力をさせていただいている。「教育活動」は学校だけで完結できるものではなく、「保護者や地域」の協力なくしては成り立たない。今後も、連携協力を積極的に推し進めていけるような体制を考えていきたい。

#### <視点⑤>【学校の指導に関わって】

**保護者評価⑨**「学校は、子供の困ったことや悩みなどに対応していると思いますか。」

**保護者評価⑩**「学校は、仲間はすれ・いじめ等を認めない指導をしていると思いますか。」

保護者評価⑨・⑩の肯定的評価は、⑨は92%（⑨A:49 B:43 ⑩は94%（A:50 B:44）となっている。良い評価だと読み取れるが、C、D評価もあることから、その数値を受け止めて児童一人ひとりにしっかり目を向け、寄り添いながら、保護者からもさらに信頼されるよう教育活動を進めていく努力を今後も進めていきたい。日々の指導等を丁寧に行いながら、様々な職員研修等も教育活動に生かしていきたい。

**保護者評価⑫**の「学校は、保護者の相談に、ていねいに対応していると思いますか。」については、肯定的評価は97%（A:58 B:39）であった。A評価が昨年より若干下がっている。児童・保護者に相談されることに対して、児童や保護者の話をじっくりと聞き、一緒に考え対応をしていきたい。担任が一人ではなく、学校体制で対応していくことが大切であると考えている。

**保護者評価⑮**の「学校は、子どもの良さや努力を認めていると思いますか。」については、肯定的評価が95%（A:55 B:40）である。認められること、ほめられることは、子どもにとってうれしいことであり、自己肯定感を高めることにつながる。今後もさらに、児童のよさや努力を認めていきたい。

#### <視点⑥>【小中一貫教育について】

**自己評価（教職員）⑫**「小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し、そのための取組や教育課を意識して行っている。

**保護者評価⑮**「小中一貫校として、3校（白根巨摩中・白根飯野小・白根東小）が連携して行事や教科指導を行っていることを理解している。

自己評価のA評価は46%、保護者評価のA評価は51%となっている。保護者は昨年のA評価43%より上がっている。徐々に周知されていることが分かる。

小中一貫校となり、2年目を迎えている。中学校との「合同あいさつ運動」や白根東小と白根飯野小の6年生が参加した白根巨摩中学校との「合唱交流会」、中学生から6年生への「陸上指導」、中学生から清掃についての「オンライン交流」等、様々な活動が行われている。教職員間では互いの授業参観も行われた。小中連携の様々な活動が定着してきている。引き続き、3校の連携・協力体制についての研究を深めていきたいと考えている。学校だよりやホームページ等も活用し、周知していきたい。

#### <Ⅳまとめ>

3年以上続いた新型コロナウイルスの感染症は、令和5年5月に5類感染症になり、ようやく通常の生活に戻りつつあります。この3年間で、学校生活に与えた影響は計り知れません。

プラスの面で考えれば、ギガスクール構想が一気に前進し、一人一台端末は毎日使う文房具のようになりました。1年生も自分でログインして端末を立ち上げ、上手に操作をしています。個人や小グループでの発表方法や友だちとの意見交換等、端末を使ってより効果的に行われるようになりました。これまでの授業スタイルは大きく変わり、個別最適な授業はさらに進展しました。今後、端末を活用した授業は必要不可欠です。より効果的に活用していくために、さらに研究を進めていく必要があります。

教育は時代によって変化していきます。新たな教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」がコンセプトになっています。様々な課題に対し、主体的に考え、取り組んでいく力が求められています。その時々に必要な教育を行っていく必要があります。

一方、『不易と流行』。教育には、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて価値のあるものがあります。時代の変化とともに変えていく必要があるものに柔軟に対応していくことも求められています。どれほど時代が変わろうと、どんなに新しい教育理論や指導法が展開されたとしても、私たちの願いはぶれることなく、目の前にいる子どもたちの健全な育成です。保護者の方の願いも全く同じだと思います。今後も、学校長をリーダーに「チーム東小」として全職員が力を合わせ、同じ方向を向き、日々教育活動に臨んでいく所存です。

自己評価・児童アンケート・保護者アンケートにおいて、いずれもおおむね満足できる状態ではありますが、「保護者の願い」「地域の強い思い」「地域との連携」を大事にし、お互いにコミュニケーションを図りながら力を合わせていくことで本校の学校教育目標の実現につながっていくと確信しています。「子どもたちが通いたくなる白根東小学校」、「保護者が通わせたいくなる白根東小学校」、そして、「教職員が勤務したくなる白根東小学校」となるように、学校・保護者・地域のベクトルの向きを同じくして取り組んでいくことが、一番大事なことだと考えています。

今後も、ご理解とご協力をお願いします。